

# 立川 野菜づくり ボランティア

立川市

平成30年1月調査

## 1 活動の目的

都市農業は税制面での支援は進んでいるも、後継者不足、高齢化が進み労働力不足が発生しています。立川市ではこれらの対策として援農ボランティアを募集しています。

当グループもその活動の一環として活動を始めたのですが、市では対応しきれない諸問題も発生してきました。

対策として、チームを作り、播種から定植、支柱立て、管理、収穫、販売までの作業の支援をはじめました。そして野菜作りや直売所を通して地域の人たちとのコミュニケーションを深める活動をしています。

## 2 活動が始まったきっかけ

会社勤めをしていた頃、定年後は立川市内で農地を借りて農業をやりたいと考えていましたが、生産緑地を借用することが難しいため断念しました。そこで、定年を迎える前に大学へ通い農業について勉強し、定年後に仲間たちと農家の畑作業のお手伝いをする援農ボランティア活動を開始しました。

立川市が主催している援農ボランティア育成講座をお手伝いするうちに、真剣に農業をしたいという思いの人が沢山いることを知り、グループを結成することにしました。市から紹介されてボランティア活動をしていた園主さんに相談したところ園主さんの所でグループ活動したらとの提案を受け、ここを拠点に活動を開始しました。

最初の2年は、活動場所である農園の園主から立川の特性や気候、種まきの時期等の農作業の基本を学びました。援農先の畑の規模が約1haあり、作業するのに必要な人数(10名程度)を割り出し、会員を募集しました。

(2000年10月1日設立)

## 3 会員資格

特別資格はありませんが、ボランティア保険は立川市がかけてくださるために、出来るだけ立川市在住者に声をかけています。

## 4 会員の募集方法

立川市内にある直売所にカタログを置いていただいたり、園主さんの近くに看板を設置して募集をしています。

## 5 入会金・年会費等の有無

なし

## 6 会員数

8名 (2名は四国の実家に帰って農業を始めたため脱退。)

## 7 会員の特徴

当グループは播種、苗の育成、定植、支柱立て、管理、収穫、出荷準備、販売と幅広い作業を行っていることから、販売でお客様との会話の好きな人は販売、種まきの好きな人は播種担当、草を取ったり、芽カキなど管理業務が好きな人は管理、人それぞれの目的を持ってきています。

年齢構成は60歳以上で女性会員は3名です。

## 8 行政等からの支援の有無

立川市にボランティア保険を出していただいています。

## 9 活動概要(援農ボランティア)

活動場所 立川市

活動日 月曜日、木曜日、土曜日(週3日)

※1週間平均、1日3人×3日のペースで活動しています。

活動時間 9:00~16:30

(参加する時間は自由。活動時間内であれば都合の良い時間だけの参加が可能です。)

作業内容 播種、苗の育成、定植、支柱立て、管理、収穫、出荷準備、販売など

## 10 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っていることなど

### ● 大変なこと

直売をしている関係上、野菜の端境期を少しでもなくすために一回の播種量を少なくして、回数を増やしています。発芽温度、生育温度に注意して作業をしているのですが、地域の気温や地温変化が正確に把握できていなくて、うまくいかず種まきしても育たないことや、日にちをあけて種まきしたにも関わらず収穫時期が同時になったりします。これらへの対応が大変です。

### ● 困っていること

毎年、数種の新しい野菜に挑戦しているのですが、野菜の詳細の特性が不明で収穫できないことがあります。専門的に相談できる場所がないことです。

## 11 今後の方向性

御社(都農林財団)や立川市などのお付き合いで沢山の農家さんと接触出来た10年間でした。

そしてその中で一番感じた事は、都市農業の支援は単に援農での工数応援ではいけないのではないかと感じています。農家の経営を支援して農家さんに合った農業経営をサポートする必要性を感じました。

御社(都農林財団)に紹介され、何回もお伺いした八王子の農家では収穫販売や棚売り販売を始めて農家の出荷準備工数を削減し、かつお客様が好きな野菜を好きなだけ自分で収穫し、重さで販売しています。ボランティアは播種、定植、生育管理だけで、農家の収入は大幅に増加しています。このような手法や実現のための指導などが今後は大事だと考えています。これからはこのような事に何らかで携わりたいと思い、今の農家にも導入を提案しています。

もう一つ、工数支援については小学校高学年以降を受け入れるボランティア活動が必要ではないかと感じています。子供が小さい時から畑に出て土いじりを体験することは大変有意義ではないかと思えます。

## 12 その他

援農ボランティア活動は行政などでは取りまとめが難しいと思います。

行政などはNPOなどを作る支援をしたり、農業営業などの専門的な支援をして頂けると助かります。

若い女性がいつでも活動できるボランティア活動の組織を作ってほしいと思います。

(着替え室やトイレの設置など。)

## 13 問合せ先

住所 〒190-0003 立川市栄町5-56-12

電話 080-2013-4088

Eメール Harada23@jcom.zaq.ne.jp

担当者名 原田 幸市郎